

「飛龍」掩体壕
保存実結ばず

高谷和生57歳公務員
(玉名市)

今年も間もなく67年目のその日がやってくる。1945年5月24日、熊本市の旧陸軍熊本(健軍)飛行場から義烈空挺隊員136人は12機の重爆撃機に乗り込み、米軍に占領された沖繩の北・中・南飛行場に特攻出撃し、全員戦死した。戦史上著明な「義号作戦」であった。今、健軍飛行場の跡地には熊本赤病院や県立大学等が建てられ、滑走路跡が、その名残を見せ

ている。そのような中、住宅街の裏手に、三菱重工業熊本製作所で生産された名機「飛龍」を爆撃から守るための全長27メートルの無蓋掩体壕1基が、民間の篤志家により、完全な形で残されている。所有者は健軍飛行場の歴史を後世に伝えようと、竹林を整備し、看板を立て、守ってこられたが、「もう限界です」と嘆かれた。この5月、連休明けには、更地にされるところ。これまでに、所有者も私も、市への公園化陳情や講演での保存提案等を進めてきたが、菊池市の旧陸軍菊池(花房)飛行場給水塔保存運動のようには、どうしても実を結ばなかった。これまで長きにわたり保存いただいた所有者に感謝しあげたい。そして、戦争の歴史を後世につたえ平和の大切さを考える「モノ」として、県内の戦争遺跡の保存指定を進めたい。

読者のひろば

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すこともあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係 ②ファクス 096(363)1268 ③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp